

賀川豊彦「賀川豊彦書簡」昭和2（1927）年3月25日

有馬頼寧様 賢台

此度は厳父様の御永眠により嘸さぞ御愁傷の

ことゝ存じます。先日の新聞によりますと尊兄

も愈々いよいよ政友会を退かれて社会事業に没頭さ

るる由 これにて私も一安心致しました。世の

中は妙なもので一党一派に偏すると正しき

人も偏した人に見えます。そして私は政友会

にあなたが関係して居らるゝ間外国から帰

つて来た外お目にかゝる機会を持ちませんで

した。

僕ママ突然なお願ですが 私は大阪に来て四貫

島セツツルメト及神戸の貧民窟の仕事が忙し

いために東京に出る機会が少いものですから

折角政府から許可された東京学生消費組

合も日に月に発展しながらも充分監督する

ことが出来ないで弱つてゐます。それで御無理

かも存じませんが、出来るならば貴兄が私に代

つて東京学生消費組合の組合長として一

党一派に偏せず（社会民衆党にも、日労党に

も其他の党派にも）学生の大衆を前にして消

費組合運動をお援け願ひたいのです。如何いかがな

ものでせうか。之は未だ他の理事に相談して居

りませぬので、私一存で、他の理事が何と申すか
存じませぬが、私としても関西に居る日が多
いので、多分他の理事も私の言ふことを聞いて呉れると存じます。何れ木立義道兄が
御伺ひして組合の現状を詳しく申上げること
だらうと存じます。

お目にかゝっている／＼申上げたいことが沢
山御座ますが、目下中耳炎で引籠中ですから
失礼させて頂きます。お葬式も出ませんでし
たがお赦ゆるし下さい。御自愛を祈りあげます。

敬具

三月二十五日

賀川豊彦